

# 平成 2 4 年度 事業報告書

自 平成 2 4 年 4 月 1 日  
至 平成 2 5 年 3 月 3 1 日

<目的及び事業> \* 定款 第3条・第4条より

(目的)

第3条 この法人は、優秀でありながら経済的理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等の人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

(事業)

第4条 この法人は、第3条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付並びに奨学生に対する指導・助言
- (2) 育英に関する調査研究・情報提供事業
- (3) 大学生等の人材育成活動助成事業
- (4) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

## I. 事業の状況

### 1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業 1>

#### (1) 大学貸与奨学生の採用・奨学金支給

平成 22 年度から、大学貸与奨学生の募集・採用を中止している。そのため、貸与奨学金は、21 年度以前に採用した学部 4 年生および医薬系の 5 年生以上の奨学生への貸与奨学金となる。

期中に貸与した貸与奨学金は合計 3,368 万円で、奨学生総数は 72 名となった。昭和 40 年第 1 期奨学生採用以来、貸与奨学金の累計は 26 億 6,707 万円となった。

#### (2) 大学貸与奨学生の「成績優秀による奨学金返還免除生」選考

平成 25 年 3 月卒業予定の貸与奨学生のうち、4 年前期までの成績表、生活状況報告書、大学推薦書を基に平成 24 年 12 月の選考委員会による書類審査、選考委員による面接を経て、理事長により以下の返還免除生 10 名を選考した。(男性 2 名、女性 8 名)  
返還免除総額は、2,016 万円となった。

### (3) 大学給付奨学生〈一般枠〉の採用・奨学金給付

平成 23 年度に予約採用した 52 名のうち 43 名および 22 年度予約採用の一浪 6 名のうち 5 名の合計 48 名が 24 年 4 月に当財団指定大学・学部への入学を果たしたので、大学給付奨学生として正式採用になった。

(男性 14 名、女性 34 名。国立 39 名、公立 3 名、私立 6 名)

平成 21 年度採用の 48 名、22 年度採用の 39 名、23 年度採用の 55 名と合わせて大学給付奨学生〈一般〉は、1 年生から 4 年生までが揃い、総数 190 名となった。

24 年度給付奨学金総額は 1 億 1,350 万円であった。

### (4) 大学給付奨学生〈芸術枠〉の採用・奨学金給付

平成 22 年度募集から当財団の特色を出すための制度として芸術枠を新規導入した。指定の芸術系大学・学部へ進学を条件とする以外は、一般枠と同様の条件で募集している。

平成 23 年度に予約採用した 8 名のうち 4 名、および一浪 4 名のうち 1 名の合計 5 名が 24 年 4 月に当財団指定の芸術系大学・学部への入学を果たしたので、大学給付奨学生として正式採用になった。

(男性 2 名、女性 3 名。国立 2 名、公立 2 名、私立 1 名。)

23 年度採用の 5 名と合わせて大学給付奨学生〈芸術枠〉は、総数 10 名となった。

24 年度給付総額は 600 万円であった。

### (5) 大学給付奨学生〈震災支援枠〉の採用・奨学金給付

平成 23 年度に予約採用した 4 名のうち 3 名が 24 年 4 月に当財団指定の大学・学部への入学を果たしたので、大学給付奨学生〈震災支援枠〉として正式採用になった。

(男性 1 名、女性 2 名。国立 1 名、私立 2 名。)

### (6) 大学給付奨学生の予約採用

一般枠・芸術枠・震災支援枠とも、募集を平成 24 年 6 月に行い、奨学生選考委員会の書類選考、選考委員面接を経て一般枠 52 名、芸術枠 10 名、震災支援枠 3 名が採用内定した。

応募資格は、当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる人材。

採用内定者のうち、当財団指定の大学・学部へ平成 25 年 4 月に入学した者に対し、最長 4 年間、月額 5 万円の奨学金を支給する。

なお、採用内定者が 25 年 4 月に指定大学・学部への入学を果たせなかった場合は、一浪として 26 年度に指定大学・学部へ入学すれば、大学給付奨学生として正式採用される。

## 2、大学院生への奨学金給付事業 <公益事業1>

### (1) 大学院奨学生（国内）の採用・奨学金給付

大学院奨学生（国内）は当財団が指定した27の大学からの推薦、奨学生選考委員会での選考、選考委員面接を経て、理事長が以下の23名の採用を決定した。（男性 9名、女性 14名。 国公立 14名、私立 9名）。  
23年度採用の25名と合わせて、大学院奨学生は48名となった。  
給付金額は月額8万円で、期中の給付奨学金総額は4,560万円であった。

また、平成24年度募集から制度変更を行い、対象者を大学院進学を予定している当財団の大学給付奨学生に限定した。奨学生選考委員会での書類選考、選考委員面接を経て、9名の大学院奨学生（国内）を学部予約採用した。  
当財団指定の大学院に平成25年4月に進学した場合は正式採用となり、最長2年間、月額8万円の奨学金を給付する。

### (2) 大学院奨学生（外国人留学生）の採用・奨学金給付

平成22年度から大学院留学奨学生の採用方法を国内大学院在学採用方式から中国と韓国を限定対象として海外大学現地予約採用方式に変更した。具体的には、中国については中国教育部の協力を得て「中国建設高水準大学国家派遣留学生事業」の採用者の中から、一方韓国についてはソウル大学校と延世大学校との協約により、当財団の応募条件に合致する修士・博士課程進学予定者の推薦を受ける。  
平成24年度は、中国から5名の学生が推薦され、奨学生選考委員会を経て、5名全員が選考された。うち、以下の4名が24年10月からの留学開始で、1名が25年上期からの留学予定。既に採用されている9名と合わせて大学院留学生は13名となった。  
給付金額は月額16万円で、期中の給付奨学金総額は2,112万円であった。

## 3、奨学生の研修・交流会事業 <公益事業1>

### (1) 奨学生の集いの実施

大学貸与奨学生及び大学給付奨学生に加えて、24年度から大学院奨学生（国内／留学）も対象として「奨学生の集い」を11月に東京と大阪で開催した。主目的は奨学生の研修と相互交流で、奨学生と選考委員、事務局との交流の場ともなっている。「奨学生の集い」の前半は講演会、後半が交流会の2部構成となっている。  
大学関係者、奨学生OB・OGも参加し、参加者合計は250名となった。うち、現役奨学生は、東京118名、大阪103名で、計221名であった。

- <東京地区> 平成24年11月24日（土） ベルサール八重洲
- <大阪地区> 平成24年11月25日（日） 電通関西支社 大ホール
- <講師> 東京・大阪とも、きたやまおさむ氏
- <講演> 東京・大阪とも、「悲しみは水に流さず一日本人の心のしくみ」

## (2) 大学院奨学生セミナーの実施

大学院奨学生に対しては、8月にセミナーを実施した。このセミナーは大学院奨学生(国内/留学大学院生)の研修と交流を目的とするもので、研究発表会、外部講師の講演、交流会の構成となっている。55名の大学院奨学生が参加し、研究紹介、グループ討論等の中で、奨学生相互の研鑽と親睦が図られた。

- ・平成24年8月11(土)12日(日) クロスウェーブ幕張
- ・研究経過報告者 22名
- ・講演「考える力、感じる力、突破する力」 ISAK代表 小林りん氏

## (3) 大学給付奨学生対象のセミナーの実施

大学給付奨学生の1年生53名、2年生53名と3年生26名(計132名)が参加して、24年9月15(土)16(日)にセミナーを葉山の湘南国際村センターにて一泊二日で実施した。セミナーは学年別研修で、それぞれ経験豊かな講師によって行われた。

1年生対象には、アイディア社のダーキー氏によるロジカルコミュニケーション・スキルとプレゼンテーション・スキルの研修

2年生対象には、児美川法政大学教授による課題解決力の養成研修

3年生対象には、我究館熊谷館長による自己分析とキャリア研修

また、1年生と2年生の混成によるグループディスカッションや奨学生間の交流も図った。

## (4) 修了生交流会

24年度修了予定の大学院奨学生と、卒業予定の返還免除奨学生および大学奨学生の修了・卒業後の各界での活躍を祈念して、当財団の選考委員など来賓出席のもと、3月9日(土)に東京で開催した。修了生有志によって編纂された「研究報告集」を出席者に配布した。

# 4、育英に関する調査研究・情報提供事業 <公益事業1>

## (1) 「IKUEI NEWS」の発行

「大学の今がわかる情報誌」として、高等教育関係者や奨学生への有益な情報提供を目的に、会報「IKUEI NEWS」を年間4回(4月、7月、10月、1月)発行した。奨学生(OB、OG含む)、大学関係(教育研究者、学長室、学生部)、全国の図書館、教育研究機関などを配布先とし、毎号企画の充実を目指した。(各号約4,000部配布)

	発行月	特集テーマ	取材大学
Vol. 58	平成24年4月	大学生とボランティア活動	名古屋大学 他
Vol. 59	同 7月	学生ベンチャーの可能性	首都大学東京 他
Vol. 60	同 10月	大学生研究フォーラム2012	—
Vol. 61	平成25年1月	これからの海外留学	お茶の水女子大学 他

## (2) 大学生研究フォーラムの開催

大学生研究の深化と課題発見のため、京都大学の高等教育研究開発推進センターと東京大学大学総合教育研究センターとの3者共催で、平成24年8月19日(日)に京都大学百周年時計台記念館にて、教育学・心理学・青年若者論等の教員、研究者400名余の参加のもとシンポジウムを開催した。シンポジウムは、「グローバルキャリアの時代に大学教育は何ができるか」をテーマに、パネルディスカッション、情報交換会の構成で行われた。

また、翌8月20日(月)には、「高校教諭のためのシンポジウム」も200名程度の全国の高校教諭が参加し、併催した。

## (3) 大学と社会との「トランジション研究調査」の実施

平成24年4月に、京都大学・溝上研究室、東京大学中原研究室との共同調査として、「トランジション研究調査」を実施した。全国の民間企業に働く25歳～39歳のビジネスパーソンを対象に、仕事に取り組む意識と実態及び大学生活の過ごし方などを定量的に把握し、大学生活の過ごし方が企業に就職した後の仕事に取り組む意識と実態にどのような影響を与えるかを浮き彫りにする。調査は(株)マクロミルに依頼し、インターネット調査を実施した。

(回収3000サンプル)

# 5、大学生等の人材育成活動助成事業 <公益事業2>

## (1) 25年度助成団体の募集・採用

平成23年10月に首都圏エリア(1都3県)の非営利組織を対象として活動計画を広く募集し、24年2月に助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行った。平成24年度は、応募総数33件から選考された以下の11団体による学生を対象とした人材育成活動に対して、1年間の資金助成を行った。

### <選考基準>

大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

### (助成金額100万円)6件

- ・ 明治学院大学ボランティアセンター  
東日本大震災復興支援活動の成果をフォーラムや報告書によって公表する活動
- ・ NPO アクションポート横浜  
地域密着型のインターンシップ事業
- ・ NPO 3 Keys  
学び場づくりプロジェクト in 児童養護施設(教育支援活動)
- ・ NPO 16歳の仕事塾  
社会人講師による高等学校での出前授業を通じた高校生のキャリア教育支援活動
- ・ NPO コトモ・カモ・まちing  
里山キャンプを体験させることで、感じる力などを身に付ける人材育成活動
- ・ NPO スマイルクラブ  
障がい者のための大学生スポーツボランティア養成モデル事業

### (助成金額 50 万円) 5 件

- ・ NPO 勉強レストランそうなんだ！  
知的障がい者を対象とした発見教室の企画運営を通じた大学生人材育成事業
- ・ NPO キッズドア  
教育での社会貢献に取り組む学生ボランティアのリーダー育成事業
- ・ NPO POSSE  
生活困窮者支援ボランティアを通じた大学生人材育成事業
- ・ NPO 非行克服支援センター  
非行少年に対する若者ボランティア支援者養成講座
- ・ NPO 環境持続研究センター  
大学生の政策提言能力向上のための実践的研修およびインターンシップ事業

### (2) 25年度助成団体の募集・採用

平成 24 年 10 月に首都圏エリア（1 都 3 県）の該当する組織を対象として活動計画を広く募集し、25 年 3 月に助成団体選考委員会にて書類選考・面接選考を行った。応募総数 40 件から、以下の 11 団体による学生を対象とした人材育成活動を採択した。  
なお、24 年度助成対象で、25 年度も助成対象として採択された団体は、2 団体となった。

### (助成金額 100 万円) 5 件

- ・ NPO あそびっこネットワーク プレーパークでのボランティア体験
- ・ NPO コドモ・ワカモノまち ing ワカモノ感育学校～里守プロジェクト
- ・ 東京学芸大学環境教育研究センター 環境教育リーダー養成講座
- ・ 藤沢市市民活動推進連絡会 学生のボランティア情報提供とマッチング事業
- ・ 立教大学コミュニティー福祉学部 復興支援を通しての学生の人材育成

### (助成金額 50 万円) 6 件

- ・ NPO かものはしプロジェクト 海外の子供を守る活動体験を通しての人材育成
- ・ NPO キズキ ひきこもり経験者への学習支援を通じた人材育成
- ・ 東日本復興支援団体 チーム次元 学生による気仙沼大島での復興支援事業
- ・ NPO 勉強レストランそうなんだ！ 知的障害者支援事業の企画運営を通じた人材育成
- ・ リカバリーキャラバン隊 精神障害者のリカバリー支援者養成事業
- ・ 早稲田大学 WAVOC 他者との出会いから育むグローバル人材育成